

「“異なる他者” とのかかわり方」に関連する諸要因の研究

——徳島大学総合科学部1年生を対象にしたアンケート調査から——

井形 玲美¹ 季 昀¹ 峪口 有香子¹ 董 鑫妮¹ 二木 順子¹ 拝郷 哲也¹
楊 曉婷¹ 吉田 耕平¹ 上野 加代子^{2*} 真壁 和裕²

(¹徳島大学大学院総合科学教育部地域科学専攻)

(²徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部)

Factors related to the level of acceptance for people who are regarded as being different

Questionnaire research administered to first year students at The University of Tokushima

Remi Ikata,¹ Yun Ji,¹ Yukako Sakoguchi,¹ Xin Ni Dong,¹ Junko Niki,¹ Tetsuya Haigo,¹ Xiao Ting Yang,¹ Kohei Yoshida,¹ Kayoko Ueno,² Kazuhiro W. Makabe²

¹Regional Sciences, Graduate School of Integrated Arts and Sciences, The University of Tokushima, Japan

²Institute of Socio-Arts and Sciences, The University of Tokushima, Japan

Abstract

This study aimed to determine factors related to the level of acceptance for people who are regarded as being different in terms of country of origin, age and sexual norms. Questionnaires were distributed to first year undergraduate students at The University of Tokushima in Japan and promax rotation factor analysis yielded five factors: 1) orientation toward foreign cultures, 2) openness toward multiculturalism, 3) openness toward discussing sex, 4) openness toward having friendship with members of the opposite sex and 5) orientation toward educational achievement. Results showed that gender and course of study were the most important variables related to openness toward foreign cultures and openness toward multiculturalism, with female students and liberal arts students having a relatively high level of acceptance for people regarded as being different. Results suggest that university curricula should focus more on multiculturalism training for male students and students majoring in mathematics and science.

Keywords: Tokushima, Students, Multiculturalism, Sexual Norm, Cultural Diversity

* ueno@ias.tokushima-u.ac.jp

1. イントロダクション

グローバル化をモノ（産業・金融）や人（労働者・消費者）などの国境を超えた関係が、インターネットやメディアの通信、交通・運搬手段の技術刷新に後押しされ、緊密に促進されていくことであると捉えた場合、その進展がいたるところで顕著であることに異を唱えることは難しいだろう。各国の政府間レベルでは、FTA（自由貿易協定）、EPA（経済連携協定）そして TPP（環太平洋経済連携協定）の国際経済協定の締結やそれについての議論が進められており、モノ、人、そして文化を伴ったグローバル化が世界の各地で加速されている。

他方、このような社会のグローバル化は、その定義からして、労働移民の流動化や国内産業の再編成、そして国民国家の揺らぎを伴っている。とくに、異質な他者との関わりを要件とするグローバル化によって逆に、異質なモノへの許容性が低められ、異文化間の対立や外国人排斥主義が招来されることもある。例えば、それは、グローバル化を牽引してきた北米では「不法移民」への排斥主義運動、EUでは極右政党の台頭として顕著に観察されている。あるいは、移民への犯罪リスク意識の上昇は、中・上流階層がセキュリティの高い住宅地に自分たちを囲い込む要塞化の傾向にも表れている(Blakely and Snyder, 1997=2004)。

日本についてみていくと、円高が進み、企業の海外進出が加速するなか、国内製造産業の空洞化が深刻な問題になっている。そのようななか、国内産業においては、生産コストの低下が求められ、外国人研修生・実習生制度が日本でも 1990 年代からはじまり、正規採用の減少に典型的である雇用の流動化が加速している。他の経済先進諸国がそうであるように、日本にも安価な海外生産品が流入し、海外旅行へのアクセスも容易になり、消費者としてはライフスタイルの選択肢が格段に増えてきたが、労働者としては厳しい就労状況に置かれ続けることになる (Reich, 2000=2002)。現代において、国籍、民族、年齢、性といった点で自分たちとは異質な他者への排斥や差別につながる社会的土壌があることは、2011 年秋からの韓国ドラマ排斥運動や外国人犯罪への恐怖意識の増大(浜井・芹沢, 2006)などからも容易に想像されるであろう。これらのように自分とは異質な者を、本稿では以降「異なる他者」と

呼ぶことにする。

本研究では、このような社会情勢のなか、徳島大学総合科学部へ入学した新1年生の異なる他者や自分自身に対する関わり方をみていきたい。「社会が文化的に多様であれば良い」という考えは、相克する数多くある価値観のうちのひとつである (Taylor *et al.*, 1994= 1996)。しかし、上述したグローバル化において、この異なる他者への許容度をある程度有することが、現代社会への個人の適応方法であり、また一つの社会モデルでもあろう。

価値観や意識は単独で存在するのではなく、関連するものとパッケージになっていることを近代化という流れにおいて説得的に論じたのは、米国の社会学者、Berger ら (Berger *et al.*, 1974=1977) であるが、異なる他者への許容度や社会の多様性への許容度もまた、それぞれ単独で存在するのではないであろう。例えば、米国では、それらの許容度は、人工妊娠中絶の肯定、社会保障が手厚い「大きな政府」、への支持、同性婚支持などの意識と関わっているとされる (河野, 2006: 216)。

本研究では、異なる他者とのかかわりについて徳島大学総合科学部の学生に対して意識調査を実施した。調査対象とした学生は、2011 年度の新入生で、徳島大学で学びはじめた学生たちである。本研究では、異なる他者への許容度などに関連する要因（社会保障、学歴主義など）を探り、性別や学科別の分析を行うことによって、「自身とは異なる文化」への接し方にどのような違いがみられるか検討したい。そして、今後一層グローバル化が進展する社会で活躍しうる卒業生をどう育てうるかという課題への糸口を提言することを目的とした。

2. 方法

調査は質問紙を用いた自計式アンケート方式で実施した。徳島大学総合科学部の1年生を対象として「異なる他者」とのかかわり方の質問紙を配布した。質問紙は、「外国人に対する許容度」「性に対する許容度」「その他許容度」「特定の政策に対する意識」「育った環境」「上昇志向」などから構成されている。質問項目については本稿最後に添付した調査質問票を参照されたい。以下での F や S のアルファベットは質問票に対応したものである。質問紙は1年生全員が履修している「基礎ゼミナール

I」(前期)の授業において配布し、その場で回収した。質問紙に答えたくない場合は回答する必要がない旨を調査の前に伝えた。

1年在籍者272人のうち、243人に配布し(調査率89.3%)、243枚を回収した。回収率、有効回答率ともに100%であった。統計的な分析には、統計解析ソフトSPSSを用いた。

3. 結果

異なる他者に関する定量的な質問項目(55項目)に対してプロマックス回転の因子分析を実施したところ、表1にみるように5つの因子が抽出された。それらを本研究では、その各因子を構成する質問項目の内容(表1参照)に鑑みて次のように命名した。①留学生との交流や海外での暮らしや外国の文化に興味がある「外文化志向」、②性志向・宗教・障害者・異なる文化・外国人に対して許容的な「多文化許容度」、③異性の前でどう振舞うべきかという文化的な規範意識に対して許容的な「双方向性言説

許容度」、④異性間交遊がどうあるべきかという文化的な規範意識に対して許容的な「双方向異性交遊許容度」、⑤最終学歴や出身校によって待遇が異なることに対して許容的な「学歴主義」である。

以下では、それぞれの因子と関連性があった主な項目をT検定、分散分析からみていく。

<外文化志向>

T検定の結果、外文化志向と性別(F1)における平均値は、女性(n=147)は3.44、男性(n=95)は3.20であり、明らかに女性の方が外文化志向が強い(表2、図1)。

次に一元配置分散分析の結果、所属学科(F2)において、平均値は人間文化学科(n=87)は3.49、社会創生学科(n=94)は3.40、総合理数学科(n=61)は3.06である(表3、図3)。人間文化学科と総合理数学科との間に有意差が見いだされ、人間文化学科の外文化志向が有意に強いことがわかる。

表1「異なる他者」とのかかわり方に関する因子分析結果

		1	2	3	4	5
外文化志向	Q7 可能であれば、海外留学(2ヶ月以上)をしたいと思いませんか？	0.89	0.15	0.17	-0.04	0.02
	Q8 可能であれば、生まれ育った国を離れて外国で暮らしたい(1年以上)と思いませんか？	0.83	0.07	0.16	0.03	-0.01
	Q3 あなたはある程度以上の努力を払ってでも、英語をマスターしたいと思いませんか？	0.70	0.06	0.34	0.14	-0.07
	Q12 キャンパス内で留学生と異文化交流する場を積極的に利用したいと思いませんか？	0.66	0.21	0.18	0.14	-0.10
	Q6 可能であれば、学生時代に海外旅行(一週間程度)に行きたいと思いませんか？	0.65	0.05	-0.05	0.00	0.11
	Q4 あなたはある程度以上の努力を払ってでも、何か第二外国語(大学で履修している言語とは別でもよい)をマスターしたいと思いませんか？	0.57	0.19	0.37	0.05	-0.29
	Q9 どうせ行くなら、よく知っている料理の店より、体験したことのないエスニック料理(ただしゲテモノ料理ではない)の店に行きたいと思いませんか？	0.46	0.04	-0.05	-0.20	0.11
多文化許容度	Q32 心の性が身体の性と一致しない人が、身体の性ではなく心の性に合わせた格好(髪型や服装)をすることにに対して、あなたはどうか感じますか？	0.10	0.83	-0.03	-0.01	0.05
	Q31 歓談の席で留学生が「時間がきたから」と言って、床の上で数分間のお祈りをはじめたら、あなたはどうか感じますか？	0.13	0.72	0.01	0.01	-0.01
	Q33 同性愛者に結婚あるいはそれに準じた法的権利(相続権など)を認めることについて、あなたはどうか感じますか？	0.13	0.62	-0.30	0.02	-0.06
	Q20 企業における障害者の雇用率は約1.5%です。あなたはこれを多過ぎると感じますか？	-0.02	-0.58	-0.09	0.12	0.13
	Q29 自分たちが普段食べない食材(例えば犬やラクダや昆虫など)を食べる外国の習慣に対して、あなたはどうか感じますか？	0.10	0.50	0.06	-0.09	-0.02
	Q13 日本外国人登録者は都市部も地方も併せて約220万人で、総人口の約1.7%です。あなたはこれを多過ぎると感じますか？	-0.06	-0.41	-0.15	0.23	0.13
双方向性言説許容度	Q35 「若い女性が同世代の男性もいる前で性的な会話をすることは不道德だ」という考えを聞いて、あなたはどうか感じますか？	0.21	-0.04	0.92	0.18	-0.05
	Q36 「若い男性が同世代の女性もいる前で性的な会話をすることは不道德だ」という考えを聞いて、あなたはどうか感じますか？	0.17	0.08	0.90	0.07	-0.04
双方向異性交遊許容度	Q17 男性が恋人以外の異性の友人を何人が持つことについて、あなたは違和感を覚えますか？	0.03	-0.07	0.11	0.95	-0.01
	Q18 女性が恋人以外の異性の友人を何人が持つことについて、あなたは違和感を覚えますか？	0.01	-0.11	0.14	0.93	-0.01
学歴主義	Q46 「大学を卒業した人と大学に行かなかった人とは、職業や就職先が違うのは当然だ」という考えを聞いて、あなたはどうか感じますか？	0.01	-0.03	-0.07	0.03	0.91
	Q47 「難関大学を卒業した人とそうでない大学を卒業した人とは、職業や就職先が違うのは当然だ」という考えを聞いて、あなたはどうか感じますか？	0.01	-0.06	0.00	-0.04	0.91

表2 各因子と性別

各因子と性別(F1)のt検定の結果

	女性(n=147)		男性(n=95)		有意差
	平均	SD	平均	SD	
外文化志向	3.44	0.82	3.20	0.81	*
多文化許容度	3.75	0.57	3.45	0.63	***
双方向性言説許容度	3.18	1.02	3.00	1.04	n.s.
双方向異性交遊許容度	2.08	1.02	2.03	1.07	n.s.
学歴主義	3.27	0.95	3.41	1.06	n.s.

*p<.05,***p<.001

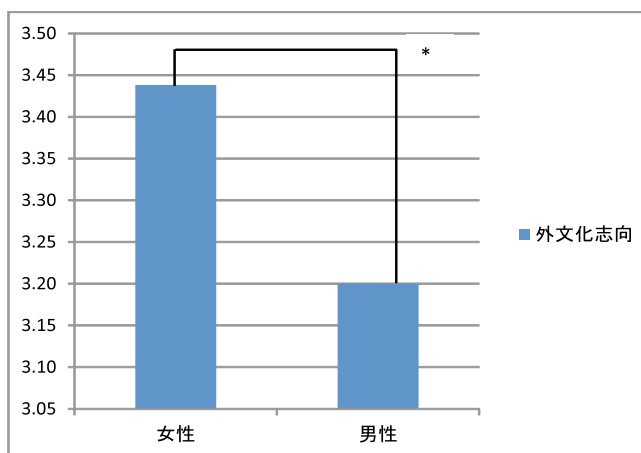


図1 外文化志向と性別

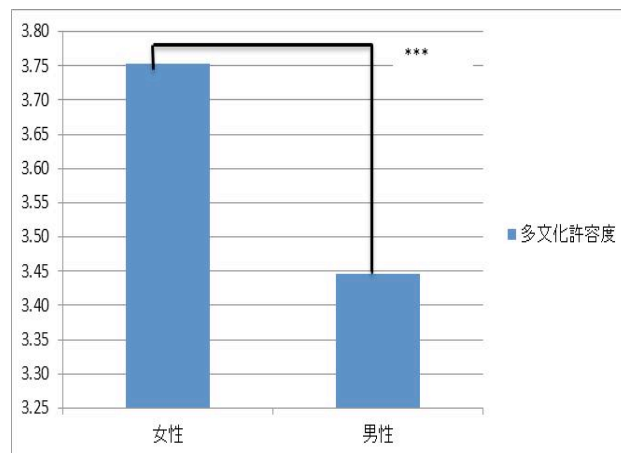


図2 多文化許容度と性別

表3 各因子と所属学科

各因子と所属学科(F2)の一元配置分散分析の結果

	総合科学部人間文化学科(n=87)		総合科学部社会創生学科(n=94)		総合科学部総合理数学科(n=61)		F値
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	
外文化志向	3.49	0.83	3.40	0.78	3.06	0.80	5.24 **
多文化許容度	3.82	0.56	3.62	0.56	3.39	0.66	10.03 ***
双方向性言説許容度	3.21	1.00	3.09	1.09	2.99	0.99	0.86 n.s.
双方向異性交遊許容度	2.01	0.98	2.03	1.00	2.17	1.18	0.48 n.s.
学歴主義	3.35	1.04	3.27	0.93	3.38	1.04	0.28 n.s.

p<.01,*p<.001

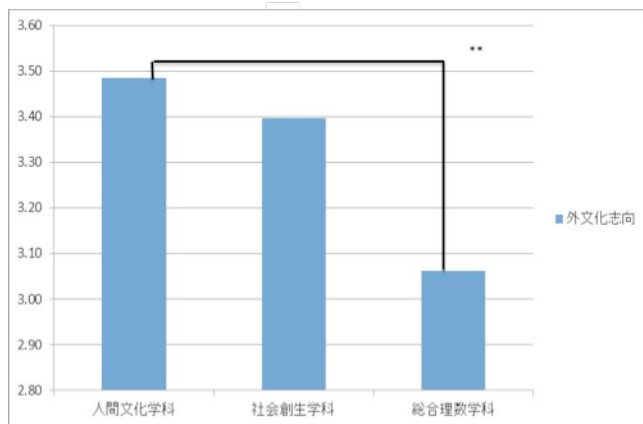


図3 外文化志向と所属学科

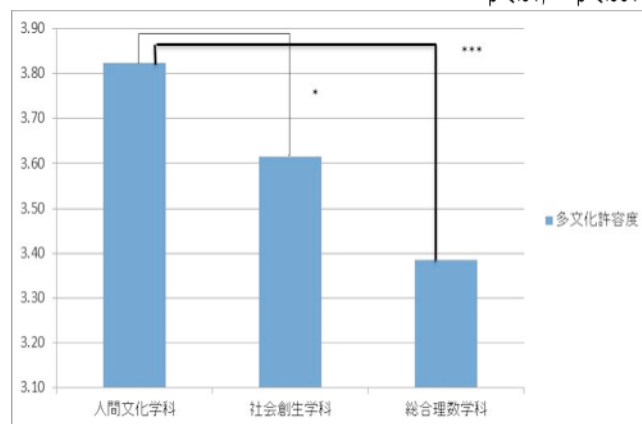


図4 多文化許容度と所属学科

表 4 各因子と転校生

各因子と転校生(F3)の一元配置分散分析の結果

	まったくなかった(n=27)		珍しかった(n=142)		珍しくなかった(n=73)		F 値	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD		
外文化志向	3.22	0.86	3.36	0.83	3.37	0.79	0.37	n.s.
多文化許容度	3.36	0.64	3.63	0.61	3.74	0.56	3.83	*
双方向性言説許容度	2.93	0.98	3.15	1.02	3.10	1.08	0.53	n.s.
双方向異性交遊許容度	2.06	1.03	2.02	1.00	2.12	1.12	0.21	n.s.
学歴主義	3.22	1.06	3.43	0.98	3.16	0.97	1.99	n.s.

*p<.05

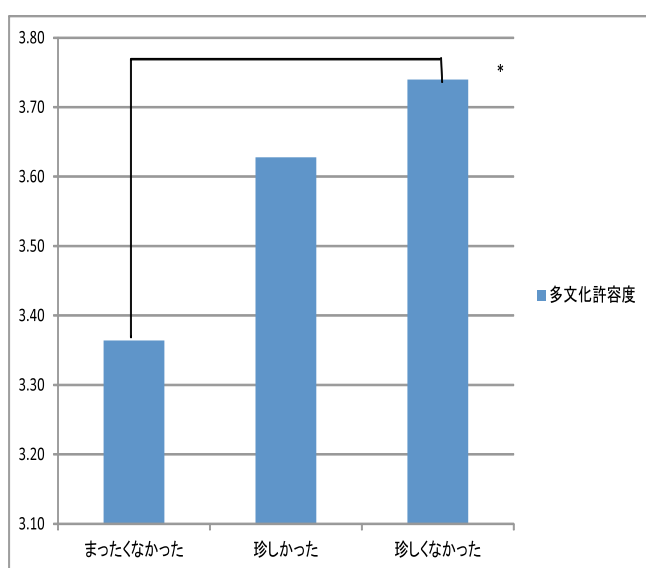


図 5 多文化許容度と転校生

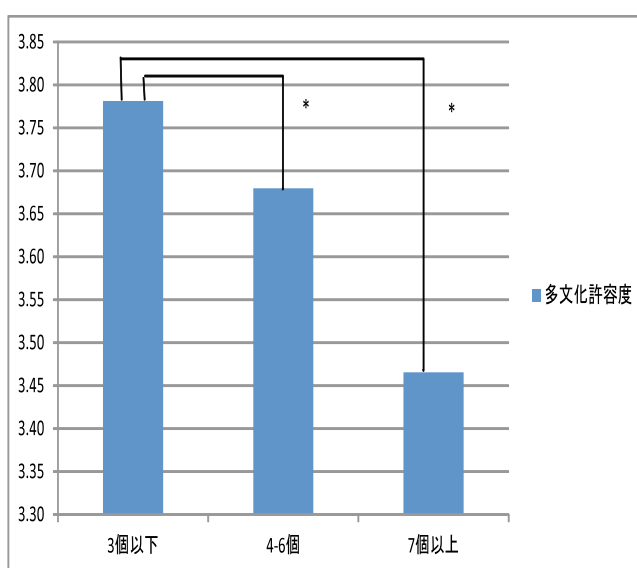


図 6 多文化許容度と臨席拒否感

表 5 各因子と臨席拒否感

各因子とあなたが市バスの二人掛けシートに座っているときに、「隣の席に来たら嫌だなあ」と感じるであろう人として、次の中ではいくつあてはまりますか？(S4)の一元配置分散分析の結果

	3個以下(n=48)		4-6個(n=116)		7個以上(n=77)		F 値	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD		
外文化志向	3.42	0.79	3.38	0.79	3.26	0.89	0.71	n.s.
多文化許容度	3.78	0.55	3.68	0.57	3.47	0.68	4.79	**
双方向性言説許容度	3.10	1.10	3.13	1.03	3.10	1.01	0.02	n.s.
双方向異性交遊許容度	1.98	1.01	2.06	1.02	2.11	1.09	0.23	n.s.
学歴主義	3.14	1.09	3.32	0.99	3.45	0.93	1.47	n.s.

*p<.05, **p<.01

表6 各因子と社会における大人との接触経験

各因子とこれまでアルバイトをするなど社会で大人の人たちと関わった経験はありますか？(S1)の一元配置分散分析の結果

	まったくない(n=80)		多少ある(n=118)		大いにある(n=43)		F 値	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD		
外文化志向	3.22	0.88	3.43	0.77	3.36	0.85	1.56	n.s.
多文化許容度	3.61	0.65	3.63	0.60	3.68	0.57	0.20	n.s.
双方向性言説許容度	3.27	1.09	3.01	0.99	3.09	1.02	1.49	n.s.
双方向異性交遊許容度	1.99	0.96	2.03	0.99	2.28	1.29	1.17	n.s.
学歴主義	3.11	0.95	3.39	0.97	3.56	1.07	3.40	*

*p<.05

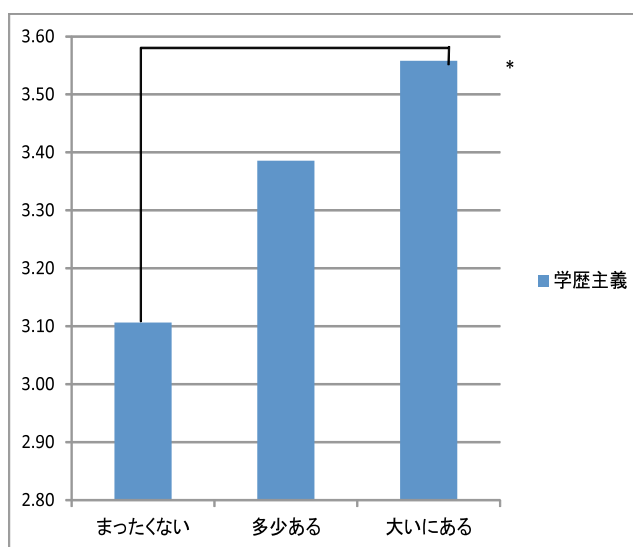


図7 学歴主義と社会における大人との接触経験

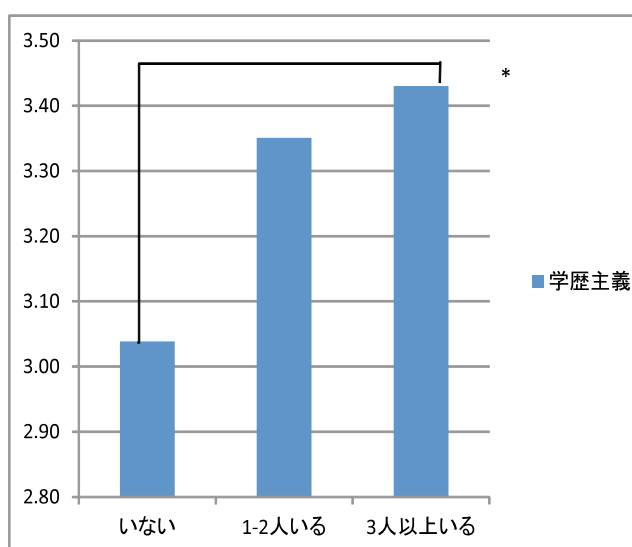


図8 学歴主義と学生以外の交友関係状況

表7 各因子と学生以外との交友関係状況

各因子と学生(大学生・予備校生・専門学校生など)以外の友人がいますか？(S2)の一元配置分散分析

	いない(n=52)		1-2人いる(n=67)		3人以上いる(n=122)		F 値	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD		
外文化志向	3.44	0.74	3.35	0.85	3.31	0.85	0.45	n.s.
多文化許容度	3.66	0.64	3.74	0.53	3.56	0.64	1.90	n.s.
双方向性言説許容度	3.19	1.08	3.06	1.07	3.11	0.99	0.24	n.s.
双方向異性交遊許容度	2.31	0.93	1.99	0.97	1.99	1.11	1.97	n.s.
学歴主義	3.04	1.05	3.35	0.86	3.43	1.03	2.91	n.s.

*p<.05

表8 各因子と外国籍の人たちとの交流経験

	交流はなかった(n=45)		表面的な交流になった(n=154)		親しくつきあった(n=42)		F 値	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD		
外文化志向	3.21	0.81	3.33	0.80	3.55	0.89	1.92	n.s.
多文化許容度	3.53	0.62	3.61	0.62	3.82	0.53	2.66	n.s.
双方向性言説許容度	3.23	1.01	3.07	1.04	3.12	1.03	0.41	n.s.
双方向異性交遊許容度	1.93	0.89	2.06	1.05	2.21	1.14	0.79	n.s.
学歴主義	2.98	0.96	3.41	1.00	3.37	0.94	3.45	*

*p<.05

<多文化許容度>

多文化許容度と性別 (F1) で T 検定を行ったところ、性別 (F1) では男女の間で有意差が見られた。多文化許容度は女が 3.75、男が 3.45 となり、女性の多文化許容度が高いという結果になった (図 2)。

所属 (F2) でも有意差が見られた。多文化許容度は人間文化学科が 3.82、社会創生学科が 3.62、総合数理学科が 3.39 という結果になった。有意差はそれぞれ人間社会学科と社会創生学科、人間文化学科と総合数理学科の間で見られ、人間文化学科が多文化許容度の高さが際立っている (表 3、図 4)。

次に、その他の変数と多文化許容度との関連をみていく。小学校高学年時期の転校生の状況 (F3) では、他の因子とは有意な関連性はみとめられていないが、多文化許容度との関係においてのみ有意差がみられ、多文化許容度の平均値は「まったくなかった」が 3.36、「珍しかった」が 3.63、「珍しくなかった」が 3.74 となっており、転校生が「珍しくなかった」回答者は、「まったくなかった」回答者より多文化許容度が有意に高い (表 4、図 5)。

自分と異なる他者との隣席拒否感 (S4) と各因子の一元配置の分散分析の結果では、多文化許容度との間においてのみ、有意差が検出された (表 5)。この質問群で、異なる他者として想定されていたのは、①美少女アニメ雑誌を読む人、②騒々しい小学生の集団、③日本語を理解できない外国人労働者、④身なりの不潔な人、⑤女装の男性、⑥落ち着きがなく始終つぶやいている人、⑦一人で歩くのがやっとの高齢者、⑧酔っ払った人、⑨大汗をかいた極端な肥満者、⑩泣いている赤ん坊を抱いた人、⑪不良中学生、⑫ずっとお喋りをしている中年の女性の集団である。拒否の対象となる要素が 12 項目中、6 項目

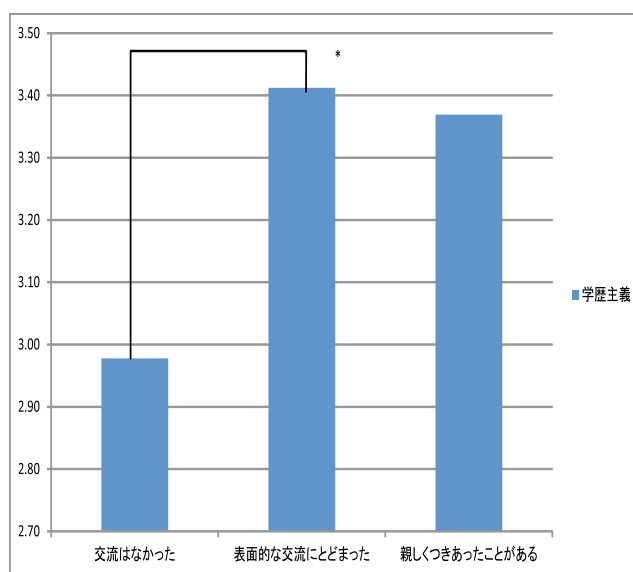


図9 学歴主義と外国籍の人たちとの交流経験

以下の回答者と7項目以上の回答者との間で有意差が認められた (図 6)。

しかし、一方で多文化許容度と相関があると予想された、社会における大人との接触経験 (S1)、学生以外との交友関係状況 (S2)、外国籍の人たちとの交流 (S3) においては、すべて有意な差は認められなかった。

<双方向性言説許容度>ならびに<性規範双方向異性交遊許容度>

性の規範に関する双方向性言説許容度と双方向異性交遊許容度については、T 検定では性別 (F1) との間には有意差は見られなかった (表 2)。また、これらの二つの因子は、一元配置分散分析の結果、所属学科とも関連していない (表 3)。しかし、双方向性言説許容度について、性別だけでなく、外国籍の

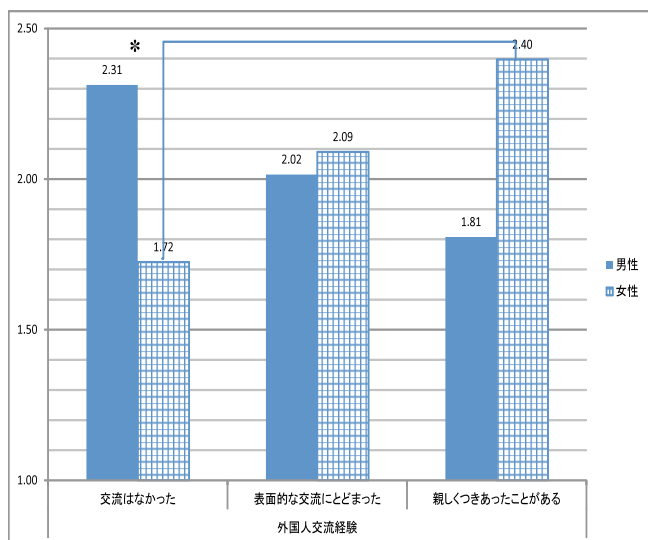


図 10 双方向性言説許容度、外国籍の人たちとの交流、性別の単純主効果

人たちとの交流経験(S3)を加えた二元配置の分散分析にかけると、性別(F1)ならびに外国籍の人たちとの交流(S3)との間に、有意な交互作用が認められた($F(2,236)=3,194, p<.05$)。交互作用が有意であったことから単純主効果の検定を行った。S3における性別の単純主効果の結果、図10に示したように、単純主効果を検定したところ、「親しくつきあったことのある」女子学生と「交流のなかった」女子学生の間で、有意差が見られた ($F(2,236)=3.085, p<.05$)。男性においては、S3の単純主効果は有意ではなかった($F(2,236)=.904, n.s.$)。

<学歴主義>

本研究では、性規範のふたつの因子同様、学歴主義もまた、性別との関連は認められていない(表2)。一元配置の分散分析では、所属学科との関連性は示されていないが(表3)、社会における大人との接触経験(S1)、学生以外との交友関係状況(S2)、外国籍の人たちとの交流(S3)で有意な差が認められた。

学歴主義は、社会における大人との接触経験が「まったくない」に対して「大いにある」が有意に強かった(表6、図7)。

表7にみるように、各因子と学生以外との交友関係状況との一元配置分散分析はいずれも有意差は認められなかったものの、学歴主義のF値が大きいことから、Tukeyの多重比較検定法を用いて検証し

たところ、学生以外の友人が「いない」に対して「3人以上いる」は、学歴主義が有意に強かった(図8)。

外国籍の人との交流と各因子の一元配列分散分析では、学歴主義の因子においてのみ有意差があった(表8)。また、外国籍の人たちとの交遊は「交流がなかった」に対して「表面的な交流をした」群において学歴主義が強いという結果になっている(図9)。

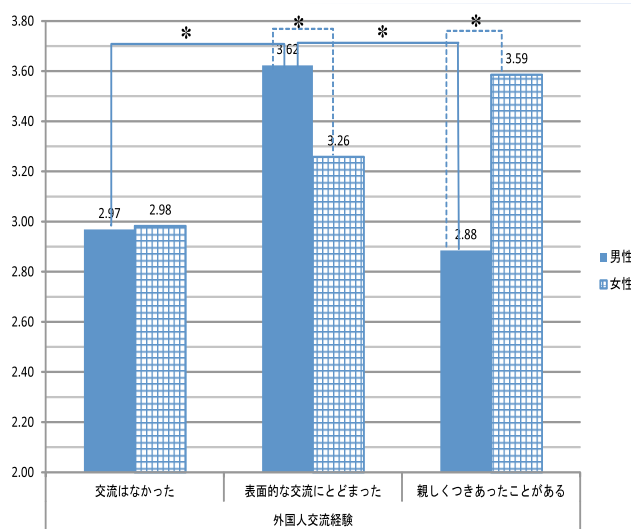


図 11 学歴主義、外国籍の人たちとの交流経験、性別の単純主効果

さらに性別を加えて、2元配置分散分析で外国籍の人たちと交流経験(S3)と学歴主義の関連をみた。その結果、性別の違いと外国籍の人たちと交流した経験の間に交互作用が認められた($F(2,235)=3.895, p<.05$)。交互作用が有意であったことから単純主効果の検定を行った(図11)。「交流はなかった」において、性別(F1)の単純主効果は有意ではなかった($F(1,235)=.002, n.s.$)。「表面的な交流にとどまった」において、男性において学歴主義が強くなり、性別の単純主効果に有意差が認められた($F(1,253)=5.308, p<.05$)。「親しく付き合ったことがある」において、女性の学歴主義が強くなり、性別の単純主効果が有意であった($F(1,235)=4.695, p<.05$)。性別の男女ごとの単純主効果は、女性において有意でなかった($F(2,235)=2.818, n.s.$)が、交流が増えるに従って学歴主義が強まる傾向が読み取れた。

4. 考察

以上が、徳島大学総合科学部の1年生に行った質問紙調査の結果である。本調査で際立っている知見は、グローバル化による社会の多様性についての主要因子とみなされうる外文化志向と多文化許容度が抽出され、これらの因子との関連で学科と性別において強い相関が認められたことである。以下、これらの結果について再度、要点をまとめ考察を加えていきたい。

第一の結果は、学科による意識や志向性の違いであった。一元配置分散分析の結果からは、外文化志向は、人間文化学科と社会創生学科と総合数理学科のなかで、人間文化学科がもっとも強く、総合数理学科に対してその値は有意に高かった。徳島大学総合科学部の学科構成をみると、人間文化学科は、国際文化コース、心理・健康コースのふたつのコースから構成されており、社会創生学科には公共政策コース、地域創生コース、環境共生コースの3コースがある。そして総合理数学科は数理科学コース、物質総合コースに分かれている。カリキュラム編成から考えると、人間文化学科の学生は「文系」、総合理数学科の学生は「理系」、社会創生学科は両者の中間に大別しうる。そして一般的に、理系は物質や自然的な事物や事象に関心があり、文系は人間や人間が営む社会に関心のある学生が集まる傾向が強い。とくに今回の知見は、人間文化学科の国際文化コースと心理・健康コースという特性が反映されているといえるだろう。異なる文化との関わりは、自分や自文化を映す鏡でもある。国際文化コースは、外国文化（言語や文学・歴史）を含む文化そのものへの関心が高い学生が志望し、また心理・健康コースは自分をはじめとする他者に強い関心をもつ臨床心理志望の学生が含まれている。

第二の主要な結果は、男女でみると、女性のほうが、「外文化志向」「多文化許容度」が高いという点である。これにはさまざまな要因が介在しているだろうが、ひとつには日本における性別分業構造の系譜から読み取れるのかもしれない。戦後の高度経済成長期の日本では、自営業の衰退を背景とした性別分業社会が出来上がり、女性の役割は家庭に振り当てられ、女性は結婚し、経済的に男性に依存することが前提とされていた。そして女性の労働の多くは家事や育児というような家庭内の「無償」の労働に

なり、男性は一家を養う大黒柱として家庭外の「有償」の労働になっていった。この構造において女性は、周縁的な立場に追いやられ、劣位なジェンダーとして規定されてきたという経緯がある。しかし、1985年に「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等女子労働者の福祉の増進に関する法律」が制定され、女性の社会参加への政策上の大転換が行われた。そのような社会的気運のなかで育ってきた現在の女子大生が「異なる他者」により寛容的であるのは、そのような経緯をもつ女性の方が自らのジェンダーの周辺性や劣位性ゆえに人としての在り方に平等性を求め、見知らぬ事に対して積極的な傾向があると推察することができる。

なお、調査結果では割愛したが、クロス集計の結果からは、人間文化学科の学生は「男は仕事、女は家庭」という考えや、「デート代は男性がもつべきだ」という考えにも他学科より否定的であることがわかった。人間文化学科の構成に女性が多いことを考慮すると、とくにこの学科の女性たちは、積極的に社会に進出し、他者と遭遇し、男性と同等またはそれ以上に働きたいと考える傾向が強いといえるだろう。いずれにしても、このような性別についての考察の是非は、今後、精緻に検討されるべき課題になるであろう。

最後に学歴主義についても簡単に触れておく。本調査では、アルバイトの経験などを通して社会において大人との接触が多い学生や、学生以外の友人を多くもつ学生に、学歴主義が強く見られる傾向があった。これは、社会で学歴による選別を観察する機会が多いからかもしれない。また、外国籍の人たちとの交流経験が多い学生において、学歴主義が強く見られる傾向があったのは、例えば中国や韓国などが学歴を極めて重視しており、交流を通してそういう情報を得る機会が多いことに関係していると推察することができる。

5. 結論

本稿では紙幅の制約から、単純集計の結果を示していないが、全体の傾向としては、「異なる他者」とのかかわりに、総合科学部1年生が消極的であるといえないだろう。質問項目が性関連か、年齢関連か、あるいは回答者の性別や所属でそれぞれ差がみられたものの、少なくとも学生はグローバル化に伴

い外文化志向や多文化への興味を持たざるを得ない状況が浮き彫りにされている。徳島大学では約200人の留学生が在籍し、徳島市内だけでも人口約26万人のうち、外国人登録人口は1,667人である。¹したがって、徳島が単なる地方の一小都市に甘んじることなくグローバリズムを推進する際には、徳島大学で多様な価値観や自文化を超えて機能する知識を養うような多文化教育が大切であることは言うまでもなく、学内での授業体系の整備のみならず、交換留学や地域交流をはじめとした諸制度をさらに充実していく必要がある。また、外文化志向や多文化許容度は、社会人や学生ではない友人や外国籍の人たちとの接触経験の有無と相関があることが明らかになったことから、徳島大学においてもそうした接触を経験できるしくみを作っていくことによって、学生の意識や志向もさらに変化することが期待される。

往々にしてそうした教育は文系学生になされるきらいがあるが、今回の調査からは、総合科学部においては、文系学生は入学当初から既に外文化志向や他文化許容度が高いのであるから、今後は特に理系の学生に対して、より積極的に「異なる他者」への寛容な理解を育む教育を施し、学生の内向き志向を是正する必要があるだろう。

本調査の対象学生が今後、どのような社会的イベントを経験し、異なる他者への関心や許容度がどのように変化させていくのかをみていくことも意義のある作業であり、そのために本調査対象学生が卒業学年になる2014年度に同じ質問項目を組み入れた追跡調査を行っていくことが今後の課題として望まれる。

<参考文献>

Berger, Peter, Brigitte Berger and Hansfried Kellner, 1974, *The Homeless Mind: Modernization and Consciousness*. Penguin (=1977, 高山真知子他訳、『故郷喪失者たち——近代化と日常意識』新曜社。)

Blakely, Edward J. and Mary Gail Snyder, 1997, *Gated Communities in the United States*. Brookings Inst Pr.

¹ 「徳島市の概要」

<http://www.city.tokushima.tokushima.jp/gaiyou/index.html>

(=2004, 竹井隆人訳『ゲーテッド・コミュニティ——米国の要塞都市』集文社。)

浜井浩一・芹沢一也, 2006, 『犯罪不安社会——誰もが「不審者」?』光文社。

河野博子, 2006, 『アメリカの原理主義』集英社新書。

Reich, Robert B., 2000, *The Future of Success. A. Knopf* (=2002, 清家 篤訳『勝者の代償 ——ニューエコノミーの深淵と未来』東洋経済新報社。)

Taylor Charles, Anthony Appiah, Jurgen Habermas, Steven C. Rockefeller, Michael Walzer, and Susan Wolf, 1994, *Multiculturalism: Examining the Politics of Recognition*. Princeton University Press. (=1996, 佐々木毅・辻康夫・向山恭一訳『マルチアルチュラリズム』岩波書店。)

添付 調査質問票

2011年度 プロジェクト研究Ⅰ アンケート

このアンケートは、皆さんの「異なる他者」とのかかわり方について調べることを目的としています。どの質問も、正解のあるようなものではありませんので、率直な回答をお願いします。記入によって得られた回答結果に関しては、統計的に処理され、個人ごとのデータを特定される形で公開されることはありません。調査結果に関しましては、徳島大学大学院のプロジェクト研究Ⅰ報告会（2012年2月予定）の場で公表されることとなっており、皆さんへの報告をこれに代えさせていただきます。

徳島大学大学院 総合科学教育部 地域科学専攻

井形 玲美、季 昶、峪口 有香子、董 鑫妮

二木 順子、拝郷 哲也、楊 曉婷

以下の質問にお答えください。

F1 あなたの戸籍上の性別は何ですか？

①女 ②男

F2 あなたの所属（学部・学科）は何ですか？

①総合科学部人間文化学科 ②総合科学部社会創生学科
③総合科学部総合理数学科

F3 あなたが小学4-6年生の頃に、転校生（転入生）の数はどうでしたか？

①まったくなかった ②珍しかった ③珍しくなかった

F4 あなたの出身の都道府県を教えてください。（海外出身の場合は「国名」を書いてください）

()

それぞれの文についてどのくらい当てはまるかを評定してください。

1 まったくそう思わない 2 どちらかと言えばそう思わない
3 どちらとも

言えない 4 どちらかと言えばそう思う

5 強くそう思う

1 バスの中で日本語以外の会話が聞こえてきたら、あなたは領分を侵されたようなマイナスの印象を受けますか？

2 今後の日本のグローバル化に伴って、日常生活でもある程度は英語が必要になることは仕方ないことだと思いますか？

3 あなたはある程度以上の努力を払ってでも、英語をマスターしたいと思いますか？

4 あなたはある程度以上の努力を払ってでも、何か第二外国語（大学で履修している言語とは別でもよい）をマスターしたいと思いますか？

5 相手が外国人であることは、あなたにとって結婚の対象として大きな障害要因になると思いますか？

6 可能であれば、学生時代に海外旅行（一週間程度）に行きたいと思いますか？

7 可能であれば、海外留学（2ヶ月以上）をしたいと思いますか？

8 可能であれば、生まれ育った国を離れて外国で暮らしたい（1年以上）と思いますか？

9 どうせ行くなら、よく知っている料理の店より、体験したことのないエスニック料理（ただしゲテモノ料理ではない）の店に行きたいと思いますか？

10 教室で自分の隣の席に民族衣装をまとった外国人学生が座ったら、あなたは居心地が悪いと感じますか？

11 徳島大学全学部の留学生は約30人で、学部生全体（約6,000人）の0.5%です。あなたはこれを多過ぎると感じますか？

12 キャンパス内で留学生と異文化交流する場を積極的に利用したいと思いますか？

13 日本外国人登録者は都市部も地方も併せて約220万人で、総人口の約1.7%です。あなたはこれを多過ぎると感じますか？

14 あなたは、自分の性（問1で回答した性）に生まれたことに、おおむね満足していますか？

15 あなたは、自分の性（問1で回答した性）に生まれたことで、総じて得をしてきたと感じていますか？

16 「男は仕事、女は家庭」という考えを聞いて、あなたはどのように感じますか？

17 男性が恋人以外の異性の友人を何人か持つことについて、あなたは違和感を覚えますか？

- 18 女性が恋人以外の異性の友人を何人か持つことについて、あなたは違和感を覚えますか？
- 19 スーパーのレジなどであなたの前にいる高齢者がもたっている状況でも、あなたは待つことが気にならないタイプですか？
- 20 企業における障害者の雇用率は約 1.5%です。あなたはこれを多過ぎると感じますか？
- 21 あなたは新しく友人となる人の学歴を意識しますか？
- 22 あなたは、自分自身がこれまで経済的に比較的恵まれた裕福な環境で育ったと思いますか？
- 23 あなたは、自国民全体の中で、自分自身を平均的な、よくいるタイプの人間だと思いますか？
- 24 あなたは、「努力は報われる」というよりも、「努力はしてもしなくても結果はあまり変わらないだろう」と思いますか？
- 25 あなたは、このままでは今後日本の社会は今より悪い方向に変わってしまうと思いますか？
- 26 将来あなたの人生において、「仕事の技能を磨いて評価されることより、趣味を楽しむことの方が、価値がある」と思いますか？
- 27 あなたは、「かなりの努力を要するが多少高額でも欲しい物が買える暮らしより、多少貧しくても気楽でのんびりした暮らしの方が、自分の気質に合っている」と思いますか？
- 28 あなたは、「もし将来子供を育てることになったら、子供の将来のための教育には幼児期からお金を惜しまないだろう」と思いますか？
- 29 自分たちが普段食べない食材（例えば犬やラクダや昆虫など）を食べる外国の習慣に対して、あなたはどのように感じますか？
- 30 クジラ肉を食べることに関して、日本の食文化について海外の人から嫌悪感を示されたとしたら、あなたはその嫌悪感に対してどう感じますか？
- 31 歓談の席で留学生が「時間がきたから」と言って、床の上で数分間のお祈りをはじめたら、あなたはどのように感じますか？
- 32 心の性が身体の性と一致しない人が、身体の性ではなく心の性に合わせた格好（髪型や服装）をすることに対して、あなたはどのように感じますか？
- 33 同性愛者に結婚あるいはそれに準じた法的権利（相続権など）を認めることについて、あなたはどのように感じますか？
- 34 「デート代は男性がもつべきだ」という考えを聞いて、あなたはどのように感じますか？
- 35 「若い女性が同世代の男性もいる前で性的な会話をするのは不道徳だ」という考えを聞いて、あなたはどのように感じますか？
- 36 「若い男性が同世代の女性もいる前で性的な会話をするのは不道徳だ」という考えを聞いて、あなたはどのように感じますか？
- 37 仮に「就活では女子はパンツスーツよりスカートの方が採用率が高い」と聞いたら、あなたはどのように感じますか？
- 38 「管理職には男性が多く、女性は少ないのは当然のことだ」という考えを聞いて、あなたはどのように感じますか？
- 39 女性の社会進出を促進するために、業績や能力が同じだった場合には男性よりも女性を優先的に採用したり昇進させる方策について、あなたはどのように感じますか？
- 40 「シングルマザーの家庭が多くなっていることは、社会・家族の多様化という観点から言えば、家庭のあり方として特に問題視するようなことではない」という考えを聞いて、あなたはどのように感じますか？
- 41 「デパ地下のような総菜を安く買える長時間営業の店が近所があれば、主婦は日々の炊事をほとんどしなくて済む」という考えを聞いて、あなたはどのように感じますか？
- 42 「共働きをしてでも舅や姑を立派な老人ホームに入れるのは、あるべき家庭の姿である」という考えを聞いて、あなたはどのように感じますか？
- 43 「負担が大きくても家族がずっと家庭で老人介護をするのは、あるべき家庭の姿である」という考えを聞いて、あなたはどのように感じますか？
- 44 「今後の超高齢社会に向けて、国民全員が高齢者の年金などのために税金が上がっていくことはやむを得ない」と聞いて、あなたはどのように感じますか？
- 45 「幼児参加型番組などでも、現実同様にさまざまな障害をもつ子供が参加している方が教育的でよい」という考えを聞いて、あなたはどのように感じますか？
- 46 「大学を卒業した人と大学に行かなかった人とは、職業や就職先が違うのは当然だ」という考えを聞いて、あなたはどのように感じますか？
- 47 「難関大学を卒業した人とそうでない大学を卒業した人とは、職業や就職先が違うのは当然だ」とい

う考えを聞いて、あなたはどう感じますか？

48 「禁煙やダイエットを試みて何度も失敗している人は、自己を制御できないダメな人だ」という考えを聞いて、あなたはどう感じますか？

49 たとえ税金などを上げてでも、国民全員の暮らしが経済的にある一定の範囲内に収まるような所得の再分配をすることについて、あなたはどう思いますか？

50 「能力や努力によって他人より多額の収入を得たら、その額に応じて他人よりずっと高い割合で税金を払わなければいけない」というしくみについて、あなたはどう思いますか？

51 「個人の信条に基づいて式典などで起立しないなどの行為は不適切だ」という考えを聞いて、あなたはどう思いますか？

52 「家の事情より将来の自分の夢を実現させたいという欲求を優先させることは、わがままで自己中心的だ」という考えを聞いて、あなたはどう思いますか？

53 「以前にお墓だった土地を造成して新しい道路を通すことは、良くないことなのですべきではない」という考えを聞いて、あなたはどう思いますか？

54 最近流行のメンズスカート（男性がズボンの上にはくスカート）の着用について、あなたはどう思いますか？

55 「日本で長期定住外国人の地方参政権（選挙権）は必要である」という考えを聞いて、あなたはどう思いますか？

S1 これまでアルバイトをするなど社会で大人の人たちと関わった経験はありますか？

①まったくない ②多少ある ③大いにある

S2 学生（大学生・予備校生・専門学校生など）以外の友人がいますか？

①いない ②1-2人いる ③3人以上いる

S3 外国籍の人たちと交流した経験がありますか？

①交流はなかった ②表面的な交流にとどまった ③親しくつきあったことがある

S4 あなたが市バスの二人掛けシートに座っているときに、「隣の席に来たら嫌だなあ」と感じるであろう人として、次の中でいくつあてはまりますか？

・美少女アニメ雑誌を読んでいる人 ・騒々しい小学生の集団

・日本語を理解できない外国人労働者 ・身なりの不

潔な人

・女装した男性 ・落ち着きがなく始終つぶやいている人

・一人で歩くのがやっとの高齢者 ・酔っぱらった人
・大汗をかいている極端な肥満者 ・泣いている赤ん坊を抱いた人

・不良中学生 ・始終お喋りをしている中年女性集団

① 0個 ② 1-3個 ③ 4-6個 ④ 7-9個 ⑤ 10-12個

ご協力ありがとうございました。